

八高「夢現∞プロジェクト」

―持続可能な探究活動へ―

「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」へ

30年の実績持つ理数科「課題研究」



福岡県立八幡高等学校 第3学年主任

野中 朱実

さわしい独自の取り組みを始めることとなりました。

平成11年、文部科学省が定める「学習指導要領」の改訂に伴い、高等学校の教育課程に新たに「総合的な学習の時間」が創設されました。これは、これからの時代にますます重要な役割を果たす学校に、地域や学校・生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習などの創意工夫した教育活動を行えるよう定めたものでした。この「総合的な学習の時間」を有効に活用するため、導入当時の本校では社会の諸問題を担当教科に関係なく掘り下げて考えさせたり、ディベートによって論理的思考力や発信力を磨かせたりといった本気の取り組みを行っていました。そのような伝統の中、平成30年に告示された『学習指導要領』によって「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」ための「総合的な探究の時間」が始まることになりました。そこで、先行実施される平成31年度から、本校でも「探究」に

本校は、大正8年に創立された県立の普通科高校で、平成3年度に理数科を創設しました。理数科には、普通科にはない独自の教育カリキュラムがあり、平成23年度には「科学智の統合」というテーマのもと、国からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けました。本校の理数科では、単に科学的知識やその技術・方法を学ぶだけでなく、思考力や分析力、実践力や創造力を身につけた人間の育成を目指し、系統的・効果的な理数教育を行っています。

創設以来変わらず実施している本校独自のカリキュラムの一つに「課題研究」があります。この「課題研究」は、理科と数学において、基礎的学習の発展として実験・観察・研究を実施し、創造的探究心・科学的思考力・考察力を育てることを

が理科科で実践してきた「課題研究」の流れと通ずるものがあつたため、積み重ねてきたノウハウを生かし普通科でも独自のプログラムが実践できると開発したのが「夢現∞プロジェクト」です。「夢現∞プロジェクト」開発にあたり、高校生が自分たちで社会課題を見つけ探究活動を行うには、研究する意義や根拠のあるテーマ選びが重要でした。折しも、持続可能な開発目標として世界

でもSDGsが叫ばれるようになり、本校でもSDGsの17のゴールを探究テーマとすることが決まりました。こうして、社会課題に高校生がどう取り組んでいくのかを模索する、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「探究」活動が、「夢現∞プロジェクト」として、毎週水曜日の7時間目に、年間約35時間、3年間のカリキュラムでスタートしました。

思いもよらない成果と見えてきた課題

「夢現∞プロジェクト」開始から3年、職員の担当学年も一回りし、ようやく形になってきました。現在は、1年生でSDGsについての知識や理解を深め、2年生で自身が自由に選んだゴールについて、自分たちにできる活動とは何かを考えて研究し、3年生でこれまでの研究成果を後輩に伝え、継続研究の可能性を探るといふ流れで探究活動を行っています。基本的には同じゴールを目指す生徒6〜8人で構成する班での協働活動ですが、先輩から後輩へ学びの継承を行ったり、大学教授や外部の方々をお招きして助言や指導をいただいたりもしています。

3年目となった昨年は、防災意識を高めるために市民センタ

「総合的な探究の時間」では、これまで同様、探究的な学習を実現するために、「①課題の設定 ↓ ②情報の収集 ↓ ③整理・分析 ↓ ④まとめ・表現」のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことが重視されています。これは、本校



外部の方との交流会の様子

「総合的な探究の時間」では、これまで同様、探究的な学習を実現するために、「①課題の設定 ↓ ②情報の収集 ↓ ③整理・分析 ↓ ④まとめ・表現」のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことが重視されています。これは、本校

普通科「夢現∞プロジェクト」始動

「総合的な探究の時間」では、これまで同様、探究的な学習を実現するために、「①課題の設定 ↓ ②情報の収集 ↓ ③整理・分析 ↓ ④まとめ・表現」のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことが重視されています。これは、本校

このポスターは、魚の消費量の増加、持続可能な開発目標（SDGs）の達成、環境保護の重要性などを示しています。また、MSC認証やASC認証の魚の購入を促すための情報も提供されています。

ゴール14「おいSea食堂始めました。」のポスター（部分）